

第1学年 道徳科学習指導案

場 所	1年1組教室
児 童	1年1組 26名
指導者	飛澤 克昭

- 1 主題名 あいての気持ちを考えて (B)
資料名 「およげない りすさん」(わたしたちの道徳)

2 価値について

低学年の内容項目B- (9) は、「友達と仲良くし、助け合うこと。」を内容としている。これは、友達との人間関係づくりに関することであり、友達と信頼し合い、互いに高め合っていこうとする児童を育てようとする内容項目である。中学年の「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」につながっていくことである。

この段階においては、家族以外に深く人間関係を築ける存在である友達と、学校生活を通して一緒に学習をしたり遊んだりすることで、友達のよさを強く感じていく傾向がある。一方、幼児期の自己中心性から脱していないために、相手の気持ちを傷つけたり、人間関係をうまく築けずにトラブルになったりすることがある。そのような発達的特質を生かし、相手の気持ちを考えて仲良くし、一緒に活動する楽しさや喜び、助け合う大切さを実感できるように指導していくことが大切である。さらに、相手とうまくいかななくても、楽しかったことや助け合っよかったことを思い出すことで、仲良くしていくことを大切にする態度にまで広げて指導する必要がある。

3 指導にあたって

(1) 児童について

児童は小学校に入学し、新たな環境の中で人間関係を作っている段階にある。学校生活においては、学校の先生や上級生、学年や学級の同級生と関わっている。中でも、学級の同級生とは学習や生活、遊びを通して、仲間という意識を高め、仲良しの友達と休み時間に遊びながら人間関係を深めている。また、約束をして放課後に集まって仲良く遊んだりする児童も増えてきている。

一方、友達という意識があっても幼児期の特徴である自己中心的な考えから行動してしまい、仲良く活動できずにけんかになったり、協力して取り組むことができなったりする児童も多い。このような様子からは、友達と仲良くする大切さや楽しさは理解しているものの、その意義や関係を深めていくことの大切さについての理解が十分あるとは言えない。相手の気持ちを考えて優しく接することや、よさを認めることの大切さを認識し、友達と仲良くし、力を合わせて生活していこうとする心を育てることはとても大切であると考えられる。

(2) 資料について

本資料「およげないりすさん」は、友達と仲良くし、助け合っていこうとすることを扱った資料である。

池のほとりで、かめとあひると白鳥が、池の中の島へ行って遊ぶ相談をしていると、りすが遊びにやってくる。話を聞いたりすは、みんなと一緒に島へ行きたくなり「ぼくも一緒に連れて行ってね。」とみんなに頼むが、「およげないからだめ。」と3人は断り、島の方へ泳いで行ってしまふ。りすは一人ぼっちになってしまい、家へ帰る。3人は島に着いて遊ぶが、少しも楽しくならない。次の日、池のほとりで3人はりすに謝り、かめが背中にりすを乗せて島へ行くという話である。

相手の気持ちに気付かず、自分の立場だけで考えて行動することはこの時期の子どもには誰にでもあることであり、遊びたい思いからりすの心を傷付けてしまふかめの心情に共感できるものと考えられる。そのような心情をとらえ直し、友達の気持ちを考えて、仲良くしようとする心情を育てるこ

とができる資料であると考え。

(3) 指導にあたって

本時は、友達と仲良くし、互いに助け合っていこうとする心情を育てることをねらいとし、各段階で以下の手立てを講じ、児童が道徳的価値と関わりながら議論することを通して、自己の生き方についての考えを深める授業を展開する。

「きづく」の段階では、本時学習する道徳的価値について、今の自己の姿や感じ方を確かめ、問題意識をもつことができるように、児童が事前に行ったアンケート（友達とけんかになったり、嫌な思いをしたりした経験はあるか。）を紹介する。アンケートから友達は大好きで仲良くしたい相手であると同時に、一緒にいるとうまくいかないことがあり、嫌な思いをすることもあるのだということにも気付くことで、価値への導入を図る。

「ふかめる」段階では、かめの心情を中心に話し合う。池の中にある島へあひると白鳥と一緒に連れて行ってほしいとりすから頼まれた時に、遊びたい気持ちが大きいため、相手の気持ちを考えずにりすの願いを断ってしまうかめの心情に共感できるようにする。その上で、島で遊んでいても、りすのことが気になってしまい、楽しく遊べないかめの心情をおさえる。りすの顔を思い浮かべる活動を全員で行った上で心情を考えることで、相手の気持ちを考え始めているかめの心情をおさえ、りすのために何かしようという思いになっていることを確かめる。その後、りすに謝り背中に乗せて島に向かう時のかめの心情について、ペアで話し合う活動を構成し、りすとかめの両方がうれしい気持ちになっていることを考えるようにする。その後、全体で話し合うことで、相手の気持ちを考えて行動して楽しくなっているかめの気持ちについて考え、相手の気持ちを考えることは自分も気持ちよくなることを確かめ、価値への理解を深めていく。

「みつめる」段階では、「きづく」段階でもった問題意識に照らし、友達と仲良くするために大切なことや、これからしていきたいことなどを交流する活動を行い、自己の考えやこれからの自己についての考えが深まったことを自覚できるようにする。その際、内容を交流し、教師が価値付けることで、児童が学習した道徳的価値について自分の考えを深めることにつなげていきたい。

授業後は、日常生活などに関連させながら、児童の様子を観察し、友達と仲良くできている児童を評価・称揚し、道徳的実践意欲をもつことができるようにしていく。

4 「あいての気持ちを考えて」指導構想

授業後の観察・評価		
○道徳の時間	○二わのことり（3月） 友達と仲良く助け合 っていこうとする心情 を育てる。	○日常指導ほか 生活場面で、児童の様子を観 察し、友だちに優しくしたりで きた児童を紹介、称揚する。
◎こころはっぱ（9月） 友達と進んでかかわ り、仲良くしようとする 心情を育てる。		

友達と仲良くし、助け合っ
ていこうとする子ども

本時の道徳の時間			
段階	場面	ねらいにせまる手立て	児童の反応
みつめる	○本時の学習で、友達と仲良くし、助け合うことについて考えたことを交流する。	・友達と仲良くすることについての学び合いを踏まえ、自分自身のこれまでのこと、これからのことについて考えたことを交流し、自己の生き方について考えを深めるようにする。	・みんなと仲良くするっていいな。 ・相手の気持ちを考えることが大切なんだな。
ふかめる	○資料を通して、価値について話し合う。 ・りすを背中のにせて、みんなで島へ向かいながらかめが考えたことについて、自分の考えをもち、主体的に価値について考えたり、友達と考えを交流したりして、自分の考えを広げたり深めたりする。	・りすとかめの心情についてペアで話し合いをした上で、みんなで心情について考えることで、価値について一人一人考えをもつことができるようにする。 ・考えをもとに、全体の場で話し合う。話し合いを深めるため、話し合いをコーディネートする。（発言の価値付け、問い直し）	・みんなで遊ぶと楽しいな。 ・りすさんも楽しそうでうれしいな。 ・りすさんが喜ぶと自分もうれしいな。
きづく	○友達が大切な存在だと分かっているのに、けんかや、うまくいかないこともあることについて話し合う。	・事前にとったアンケートの結果をふまえ、友達とけんかしたり、うまくいかなかったりした経験について話し合い、今の自分の姿や感じ方を確かめ、問題意識をもつようにする。	・友達は大好きなのにけんかしちゃうな。 ・友達とけんかした時はどうすればいいのかな。

B 友情、信頼にかかわる子どもの実態 ○新しい環境の中で、様々な人と関わり、人間関係を深めている。 ○同じクラスの人と友達になり、学習や生活の活動を楽しみながら生活している。 ●自己中心的な考えからけんかになったり、うまく遊べなかったりすることがある。 ●相手の気持ちを考えて優しくしたり、力を合わせて物事に取り組んだりできない児童がいる。		
B 友情、信頼についての教師の願い ・相手の気持ちを考えて優しく接したり、よさを認めたりできる心情が育ってほしい。 ・友達と仲良くし、協力しながら生活してほしい。		
○関連する学習・行事・特別活動	○スタートカリキュラム「はなまるタイム」 ゲームなどの活動を通して、学級の友達と交流する。	○これまでの日常指導 生活場面で、児童の様子を観察し、友達と仲良くしたり、優しくしたりできた児童を紹介、称揚する。
○生活科 「みんななかよし」 自己紹介カードをお互いに交換して交流を図る。		

5 本時の指導計画

(1) ねらい

友達と仲良くし、助け合っていこうとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	学習内容及び活動	指導上の留意点	備考
き づ く 10 分	<p>1 価値について話し合う。</p> <p>○友達といて、けんかになったり嫌な思いをしたりしたことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊んでいるうちにけんかになった。 ・相手が嫌なことをしてきた。 ・自分が相手に嫌なことをした。 ・嫌なことを言われた。 <p>2 資料「およげないりすさん」を読む。</p>	<p>〈「事象」とのつながり〉</p> <p>事前にとったアンケートをもとに、代表的な結果を紹介して価値に関わる問いかけをする。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>友達は仲良く大切な存在であると同時に、けんかや嫌な思いをすることもあることを確認して、仲良くするにはどうすればよいかという問題意識をもつことができるようにする。</p> <p>・あらすじを場面絵で確かめる。</p>	場面絵
ふ か め る 25 分	<p>3 資料について話し合い、価値について考える。</p> <p>(1) 泳げないりすに、池の中の島へつれて行ってほしいと頼まれたときのかめの気持ちについて話し合う。</p> <p>○りすさんに、「ぼくもいっしょにつれて行ってね。」と頼まれたとき、かめさんはどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん遊びたいのに。 ・はやく島に行って遊びたい。 ・泳げないと行けないよ。 <p>(2) りすを置いた3人で、島で遊んでいる時のかめの気持ちを考える。</p> <p>○遊んでも少しも楽しくないかめさんは、どんなことを思っているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんを助けたいな。 ・りすさんに悪いことしたな。 ・りすさんは一人でかわいそうだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あひるとかめと白鳥は泳げる中で、りすだけが泳げないことをおさえた上で、遊びたい気持ちを優先させて考えてしまうかめの心情に共感できるようにする。 ・楽しみにしていた遊びも、りすがいないことで夢中になれないかめの心情をとらえる。 ・かめが島での遊びを楽しめない根拠を問うことで、りすのことを考えたからであることを押さえる。 	紙板書

<p>ふ か め る</p> <p>25 分</p>	<p>(3) りすを背中に乗せて、みんなで島に向かう時のかめの気持ちを考える。</p> <p>◎りすさんを背中にのせて島に向かいながら、かめさんはどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんを助けてよかったな。 ・りすさんも楽しそうでうれしいな。 ・りすさんが喜ぶと自分もうれしいな。 	<p>〈「事象」とのつながり〉</p> <p>りすとかめの心情について役割を決めて、ペアで話し合いを行ってみるように促す。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>りすから声をかけられた時の状況を体験することで、かめの心情について一人一人が考えをもつことができるようにする。</p> <hr/> <p>〈「友達」とのつながり〉</p> <p>りすを背中にのせた時のかめの心情を話し合う場面の中で、教師が補助発問を行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>仲間のことを考えて行動できたことや、仲良くできたことへの喜びを、りすの言葉や表情から考えられるようにする。</p> <p>・相手の気持ちについて考え、進んで仲良くしようとする道徳的心情を養うようにする。</p>	
<p>み つ め る</p> <p>10 分</p>	<p>4 今日の学習について考えたことを交流する。</p> <p>【振り返りの観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲良くするにはどうすればよいか。 ・これから、友達とどのように遊んだり話したりしていきたいか。 	<p>〈「未来」とのつながり〉</p> <p>友達と仲良くし、助け合うよさについて話し合う場を設ける。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>資料での話し合いをもとに友達と仲良くすることについて、今の自分の考えを確かめるようにする。</p> <p>・本時学習した価値における児童が発言した内容について、学びを深めたことに対し、価値付けをすることで、道徳的实践意欲を養う。</p>	